

(様式1-2) 新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防		路河川名等	(砂)伊勢戸沢					
事業毎の通番		1	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	虚空蔵(こくぞう)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強い県づくりの推進			SDGsの関連目標	  				
	関連する計画や重点施策	第3期長野県強化計画			関連する事業プロジェクト	(国)254号虚空蔵バイパス事業 (普)伊勢戸沢川河川改修事業 仮称:道の駅まるこ(防災拠点)				
	現状と課題	伊勢戸沢は、長野県東部の上田市に位置し、土砂災害特別警戒区域に指定され、保全対象に人家12戸、避難所である虚空蔵公民館、緊急輸送道路である国道254号等を有している。令和元年東日本台風による豪雨では、土石流が氾濫し周辺地域が被災。流域内は崩壊地形が認められるとともに、渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。								
	事業目的	本事業により、土石流及び流木の発生する可能性が高い溪流において砂防施設を整備し、土砂災害を未然に防止する。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	砂防堰堤 1基				600,000	300,000	—	270,000	30,000
	    									
事業効果	主な受益対象	人家12戸、避難所(虚空蔵公民館)、(国)254号(緊急輸送道路)等								
	期待される効果	【直接効果】 人家12戸、避難所1箇所、緊急輸送道路等が保全される 【間接効果】 住民の防災意識の向上、安全・安心による人口維持					費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	3.2		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	保全対象の公共施設(避難所)が将来も存続する見通しを上田市に確認。地域の重要なインフラ施設(国道)が保全対象となっており将来的にも十分な効果が見込まれる。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	R2.12以降、地元地域や上田市より毎年要望がある								
	事業説明等の経緯	R4年7月 上田市・地元と現地調査を実施 R6年1月 上田市に対し説明を実施								
評価結果	所管課の意見	保全対象には人家や避難所等が存在しており、令和元年東日本台風では土砂流出が発生し、渓床部には不安定土砂が堆積している。今後の豪雨等により土石流が発生する危険性があることから、早期対策が必要であるため、「事業着手」が妥当と判断する。					妥当性評価※	優先度評価※		
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	4.0		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

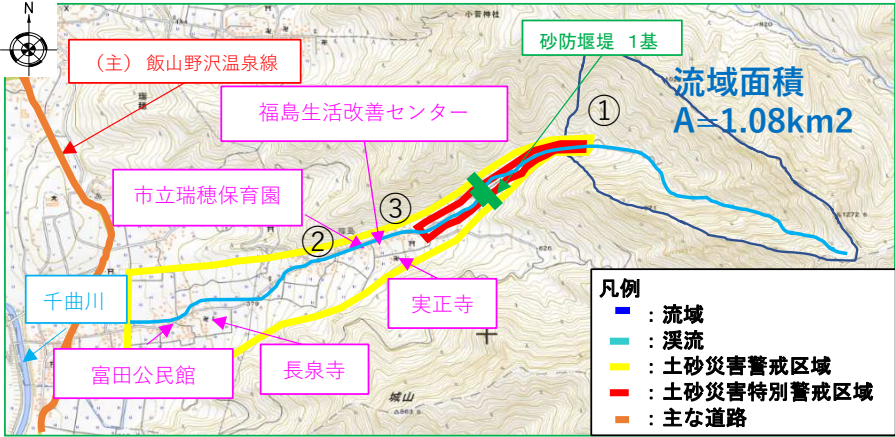
※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)

(様式1-2) 新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防		路河川名等	(砂)越畑沢					
事業毎の通番		2	市町村名	木曽郡木曽町	箇所名(ふりがな)	越畑(こえはた)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強い県づくりの推進			SDGsの関連目標	  				
	関連する計画や重点施策	第3期長野県強靱化計画			関連する事業プロジェクト	なし				
	現状と課題	越畑沢は、長野県南西部の木曽町に位置し、土砂災害警戒区域に指定され、保全対象に人家46戸、木曽合同庁舎、塩渕污水中継ポンプ場、国道19号等を有している。流域内は扇状地形が認められ、令和6年に出水し土砂が流出しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。流末は一級河川木曽川となっており、木曽川の河川整備事業と連携しながら、土砂・洪水氾濫への対策を進めたい。								
	事業目的	本事業により、土石流及び流木の発生する可能性が高い溪流において砂防施設を整備し、土砂災害を未然に防止する。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	砂防堰堤 1基				800,000	400,000	—	360,000	40,000
 (越畑沢)  流域概要図 木曽合同庁舎 JA木曽本所・中部支所 JA木曽介護センター Acoopきそ店 NTPトヨタ信州_木曽店 松本日産自動車(株)_木曽店 有形文化財 村井家住宅 ③ 保全対象 (JA木曽本所・中部支所) 砂防堰堤 1基 流域A=0.59km² ① R6. 7月出水状況 ② 保全対象 (木曽合同庁舎) 凡例 - 流域 - 溪流 - 土砂災害警戒区域 - 土砂災害特別警戒区域 - 主な道路										
事業効果	主な受益対象	人家46戸、JA木曽、緊急輸送道路(国道19号、県道)、防災拠点(建設事務所、福祉事務所) 等								
	期待される効果	【直接効果】 人家46戸、緊急輸送道路(国道19号、県道)の保全 【間接効果】 住民の防災意識の向上、安全・安心による人口維持					費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	13.44		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	木曽地域の交通基盤である国道19号(1次緊急輸送道路)および、JR中央西線が保全対象となっている。上記路線は長野-名古屋間の物流や観光産業を支えており、今後も変わらず交通の要所として見込まれている。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	R6年7月 木曽町役場の要望を受け、合同の現地調査を実施。								
	事業説明等の経緯	事業化に向けた役場説明を実施(R7. 4月)。 R8年3月 地元へ事業説明を実施予定。								
評価結果	所管課の意見	当溪流は今後の豪雨等により土石流が発生する危険性があり、保全対象には、人家46戸、防災拠点(建設事務所、福祉事務所)、国道、県道等が立地している。また、災害時に逃げ遅れによる人的被害が多く、特に国道は一次緊急輸送道路であるため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。					妥当性評価 ※	優先度評価 ※		
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	3.5		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

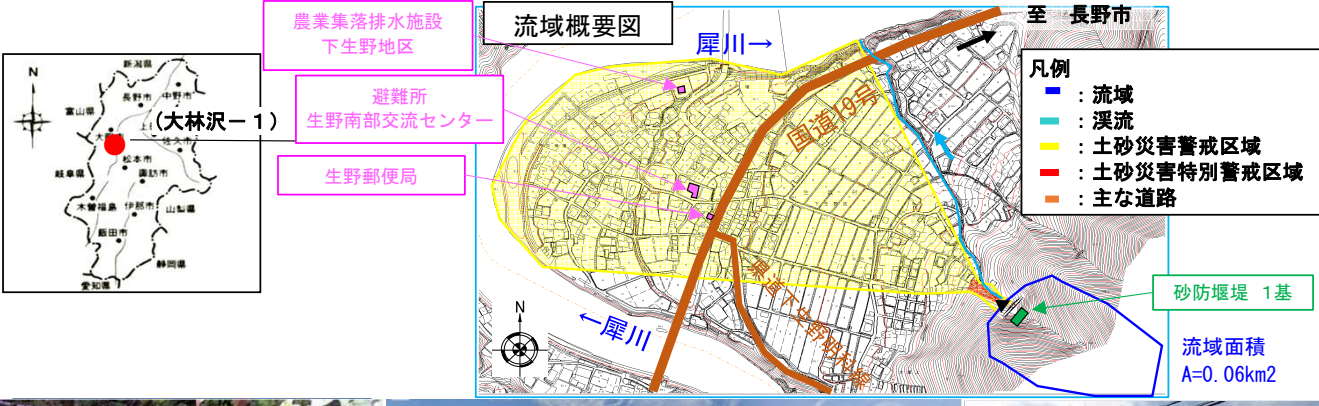
※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいくほど優先度が高い)

事業名		砂防		路河川名等		(砂)大日影入口				
事業毎の通番		3	市町村名	飯山市		箇所名(ふりがな)		福島(ふくしま)		
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強い県づくりの推進			SDGsの関連目標		11 持続可能なまちづくり 13 気候変動 16 平和と公正			
	関連する計画や重点施策	第3期長野県強靱化計画			関連する事業プロジェクト		流域治水プロジェクト			
	現状と課題	大日影入口は、長野県北部の飯山市に位置し、保全対象として人家129戸、市立瑞穂保育園、福島生活改善センター、富田公民館を有している。流域内には急峻な地形が存在し、不安定土砂が多く存在することから土石流が発生する危険性がある。								
	事業目的	本事業により、土石流及び流木の発生する可能性が高い溪流において砂防施設を整備し、土砂災害を未然に防止する。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2034年度(令和16年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	砂防堰堤 1基				900,000	450,000	—	405,000	45,000
	 (大日影入口)  流域面積 A=1.08km² 砂防堰堤 1基 凡例 ■ : 流域 ■ : 溪流 ■ : 土砂災害警戒区域 ■ : 土砂災害特別警戒区域 ■ : 主な道路  ①不安定土砂堆砂状況  ②保全対象(市立南瑞保育園)  ③保全対象(福島生活改善センター)									
事業効果	主な受益対象	人家129戸、市立瑞穂保育園、福島生活改善センター、富田公民館、等								
	期待される効果	【直接効果】人家129戸、保育園、福島生活改善センター等の保全 【間接効果】住民の防災意識の向上、安全・安心による人口維持					費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	17.9		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	要配慮者施設である市立瑞穂保育園が保全対象となっている。 保全対象の公共施設(避難所、要配慮者利用施設)が将来も存続する見通しを飯山市役所に確認								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	R6年9月 飯山市役所が地元地区より要望を受け、北信建設事務所へ要望								
	事業説明等の経緯	R7年12月 地元へ事業説明を実施予定								
評価結果	所管課の意見	保全対象には人家や避難所、要配慮者利用施設等が存在しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性があることから、早期対策が必要であるため、「事業着手」が妥当と判断する。					妥当性評価 ※	優先度評価 ※		
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	4.4		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手			

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいくほど優先度が高い)

(様式1-2) 新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防		路河川名等	(砂)大林沢-1					
事業毎の通番		4	市町村名	生坂村	箇所名(ふりがな)	下生野(しものくの)				
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強い県づくりの推進			SDGsの関連目標	  				
	関連する計画や重点施策	第3期長野県強化計画			関連する事業プロジェクト	流域治水プロジェクト				
	現状と課題	大林沢-1は、長野県中部の生坂村に位置し、昭和57年度に砂防えん堤が1基整備されているが、施設効果量が計画流出土砂量を下回っている状況にある。下流域は土砂災害警戒区域に指定され、保全対象に人家78戸、避難所である生野南部交流センター、生野郵便局、農集排処理施設、事業所12棟、国道19号、県道下生野明科線等を有している。渓床部は不安定土砂が堆積し、多数の倒木が確認されており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。								
	事業目的	本事業により、土石流及び流木の発生する可能性が高い溪流において砂防施設を整備し、土砂災害を未然に防止する。								
事業概要	着手年度	2026年度(令和8年度)		事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完了年度(予定)	2032年度(令和14年度)					国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容	砂防堰堤 1基				900,000	450,000	—	405,000	45,000
	 流域概要図 農業集落排水施設 下生野地区 避難所 生野南部交流センター 生野郵便局 至 長野市 犀川→ 犀川← 国道19号 砂防堰堤 1基 流域面積 A=0.06km² 凡例 - 流域 - 溪流 - 土砂災害警戒区域 - 土砂災害特別警戒区域 - 主な道路									
事業効果	① 不安定土砂堆積及び倒木状況		② 保全対象		③ 保全対象(生野郵便局)					
	主な受益対象	人家78戸、避難所(生野南部交流センター)、生野郵便局、農集排処理施設、国道、県道 等								
	期待される効果	【直接効果】 人家78戸及び避難所1箇所等の保全 【間接効果】 住民の防災意識の向上、安全・安心による人口維持				費用便益比(B/C)	10.9			
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	保全対象の公共施設(避難所)が将来も存続する見通しを生坂村に確認。地域の重要なインフラ施設(国道及び県道)が保全対象となっており将来的にも十分な効果が見込まれる。								
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	R6年10月 生坂村が地元地区より要望を受け、犀川砂防事務所へ要望								
	事業説明等の経緯	R6年10月 生坂村に対し説明を実施 R7年12月 地元へ事業説明を実施予定								
評価結果	所管課の意見	保全対象には人家や避難所等が存在しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性があることから、早期対策が必要であるため、「事業着手」が妥当と判断する。					妥当性評価 ※	優先度評価 ※		
	コンプライアンス・行政経営課の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	4.4		
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—			評価の決定	事業着手		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)